

# ベストピア Bestopia

ベストピアは月刊  
個人誌です。  
発行者 小原靖夫

2012年8月号  
第306号



## 1. 広島・長崎・レクイエムの旅

### (1) 孫たちの兵庫県大会も参観

憧れの自由人になって8ヶ月が過ぎました。自由になった筈なのに時間が足りない。「こんな筈ではなかった」と言うのと「筈は外れる」と言う自分の言葉が返ってくる。オリンピックが始まりなぜか心も浮いてきた8月6日から旅に出ました。フランスの旅から戻って、その整理もつかぬ間の出発です。予定では6・7日は広島、8・9日は長崎、その後は福岡、13日は「第九」の研究者藤井義正先生を明石に訪ね、お盆の最盛期に戻るという計画でした。

出発前夜、宝塚の孫から電話が入り、「8月8日県大会に出ることになった。来られますか？」吹奏楽部に2人の孫が属しています。中学生全員で58名の小さな学校、最小の楽団です。地方予選では「ダメ金」が精一杯の繰り返しでしたが、今年は新一年生が加わり14名になって、厳しい練習を重ね、「本当の金」となり予定外の嬉しい県大会出場となったのです。孫の成長は幸せで楽しみに一杯です。急遽予定を変更し7.8日を宝塚で過ごし、広島の6日、長崎の9日は予定通り「レクイエム」に参加出来ました。

### (2) 第68回原爆記念式典

「現地に行かなければ解らないことがある」これが私の旅をする原点ですが今回も多くの疑問が解けました。(私の疑問は、知識不足、正しくは常識不足から出るものですから、一般的には新しいものではありません。今更、他人に聞けないことばかりです)

今年の特筆すべき事はトルーマン大統領の孫クリフト・トルーマン・ダニエルさん(55) (下段写真左)と広島、長崎両方の原爆投下機に搭乗した米国兵士の孫アリ・ビーザーさん(24)との参加です。長崎で私も近くによる事ができ掲載の写真を撮り、プレスに交じってしばらく付いて会話を聞きながら歩きました。言葉に言えない苦悩を背負って生きていると感じました。彼の誠の勇気に心がうたれます。

トルーマン大統領は日本に実験のために原爆の投下を指示した人として歴史にその名を残しています。この周辺の歴史を資料館の記事を参考に整理しました。(次節以下参照)

広島式典には子供代表の「平和への誓い」があります。(添付資料8-1を参照ください)





困難な時代にもかかわらず「悲しい過去を変えることはできないけれど、わたしたちは、未来をつくるための夢と希望をもつことができます」「平和はわたしたちでつくるものです」と積極的な生き方を開拓しようとする姿には心うたれると同時に負の遺産ばかり遺した者の一人として後ろめたさも感じます。

長崎の式典には被爆者合唱、児童合唱、合唱、千羽鶴(添付資料8-2)があります。「もう二度と作らないで、わたしたち被爆者を」で式典が始まります。三度目の被爆者は日本人自身の手で作られてました。

相応しくない野田首相の読みあげる形どおりの挨拶文には虚しさと怒りを感じました。両市長とも原発の廃止には触れていませんが、長崎市長は平和宣言で使用済み核燃料、「高レベル放射性廃棄物の処分」について言及しています。

(添付資料8-3)

(3)キッズ・ゲルニカ in ながさき

子どもたちが願う世界平和の祈りを壁画にして展示してありました。是非見に行ってください。一部を紹介します。(下段写真)

(4)広島長崎でモーツァルトの「レクイエム」を聴く

読売日本交響楽団が創立50周年の記念事業として、広島、長崎の地でオーケストラの演奏を通じ、原爆の悲劇を一人ひとりが胸に刻み、平和の尊さをかみしめるとの趣旨で、広島、長崎両市民による合唱団を組織してモーツァルトの「レクイエム」と「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を演奏する企画を実現しました。式典後の夜7時からの2時間です。

指揮者のシルヴァン・カンプラン氏は4月に両市を訪問され、現地の話を聞き、資料を読み原爆の悲惨さに共感するほどに準備をされての指揮振りに深い感動を受けました。

通常のレクイエムと異なり、広島では薄田純一郎の「碑」の詩の朗読が、長崎では永井隆の「長崎の鐘」が4回朗読されるという演奏です。選ばれた詩と文章が音楽にマッチした素晴らしい内容で言葉になりません。指揮者はフランスの方ですが「長崎の鐘」は仏語で読んでおられ、長い朗読を理解されていることがよく分かる指揮振りが、言葉の壁を越え国境を越える音楽の芸術性を終始感じさせるものでした。ソリストはソプラノ森麻季さん

メゾソプラノ山下牧子さん、テノール鈴木准さん、バス・バリトン久保和範さんの4人が座って後ろの合唱と朗読を聴くという場面が多かったのですが、その姿がとても気品に満ちて神秘的なオーラを発しているように見えました。これも初めての経験で「祈りの結晶」の悲しみを超えた平穏さを感じさせてくれました。まさに、レクイエムでした。

特に森さん、山下さんは朗読に感動の涙を必死でこらえようとされ、次の独唱に備えられる厳しい姿も気高く見えました。長崎ではお二人とも涙をこらえきれずにカーテンコールではそれを隠そうとはされませんでした。

合唱団はこの日の為に特別に編成され、オーディションで選抜されたメンバーで、高校生から70代後半までと幅広く、被爆者も含まれており、真実を知っての合唱と読売日本交響楽団の細やかな演奏、指揮者との呼吸が相まったの舞台、観衆はなかなか立ち上がりず合唱団員の全員が退場するまで拍手が続き、最後の瞬間まで大切に共有できた素晴らしい演奏会でした。



## 1. 原子爆弾の発明から投下実践

原子爆弾の発明から広島長崎への投下実践までの期間は7年足らずです。短期間に集中的に研究開発が進められていたことが改めて判りました。広島長崎の原爆資料館を訪ね判ったことを科学と政治の観点からまとめてみました。

①1938年12月ドイツの物理学者オットー・ハーンとリーゼ・マイトナーによって、原子の核分裂が発見され、その後に核分裂の際に多量のエネルギーが放出されることが判明

②1939年4月デンマークの物理学者ニールス・ボーアがウラン235が低速中性子で核分裂すると米国で発表。

これらはいずれも第二次世界大戦勃発（1939年9月1日）の前です。大戦開戦後間もなく

③1939年10月11日ナチスから逃れてアメリカに亡命していた物理学者レオ・シラードが、ナチスドイツが核分裂を兵器化するのを恐れ、アインシュタイン博士に相談、署名をもらって「原子爆弾の可能性と政府の注意喚起」の報告書をルーズベルト大統領に提出

④1941年7月イギリスからの亡命者ユダヤ系の物理学者オットー・フリッシュとルドルフ・ハイエルスがウラン型原子爆弾の基本原則とこれに必要なウランの限界量の理論計算をまとめた。

⑤1941年10月英国首相チャーチルがルーズベルト大統領に働きかけて原子爆弾の開発の決断に導いた。

⑥1941年12月シカゴ大学アーサー・コンプトンはプルトニウムの研究を開始、レオ・シラード等核分裂の研究者をシカゴ大学に集結させた。

⑦ハーバード大学総長ジェイムス・コナントはウランの濃縮とともにプルトニウム原爆の開発に着手するように進言した。

⑧1942年6月ルーズベルト大統領は秘密裏にマンハッタン計画を開始させる。

マンハッタン計画は3年の歳月と20億ドル（当時の国家予算の20%、当時の日本国の国家予算に匹敵）、12万9000人の科学者、技術者を動員

⑨1943年4月ニューメキシコ州にロスアラモス研究所を設置、開発責任者はロバート・オッペンハイマー博士

⑩1943年5月5日原子爆弾使用についての最初の論議がされる。この頃から目標はドイツではなく日本に移っている。（ドイツの戦況悪化の始まり）トラック島に集結する日本艦隊に投下するというのが大方の意見。大都市への投下は考えられていない

⑪1944年1月レニングラード包囲網が解かれ、スターリンの勢いが出始める。戦後処理について米英はスターリンの影響を警戒し始める。このことは日本への原爆投下と大いに関係がある。

⑫1944年6月テネシー州オークリッジに巨大なウラン濃縮工場（プルトニウム製造も目的）が建設される。

⑬1944年9月18日ルーズベルト大統領とチャーチル首相がハイパーク協定で日本への原爆投下を決定（マンハッタン計画の巨額の費用、投下人員の必要性を国民に説明するには原爆の威力を国民に示す必要があったと言われている）

⑭原子爆弾投下実行部隊の編成完了。B-29,計14機、部隊員1707人

ユタ州のウエンドーバー基地で原子爆弾投下の秘密訓練を開始

⑮1945年2月4日ヤルタ会談、スターリンが病氣療養中のルーズベルト大統領を遠路のクリミア半島ヤルタに呼び寄せチャーチル首相を交えて会談。ドイツ降伏後90日以内にソ連が日本戦に参戦することを決める。

⑯1945年4月12日ルーズベルト大統領急死。トルーマン大統領となる。

⑰1945年4月27日日本への原爆投下第一回目標選定委員会開催。東京湾、横浜、京都を含む17都市

⑱1945年5月11日第二回目標選定委員会開催。京都、広島、横浜、小倉の4都市

⑲1945年5月28日ドイツ降伏（4月30日ヒトラー自殺）第三回目標選定委員会開催。京都、広島、新潟となり、横浜が外れると同時に翌日大空襲（原爆投下目標都市には空爆が禁止されていた。原爆の破壊力を正確に測定するため）

⑳1945年6月14日京都が外れる。小倉、広島、新潟となる。

㉑1945年7月16日ニューメキシコ州で世界初の原爆実験に成功（プルトニウム原爆）



②アイゼンハワー将軍、対日戦にもはや原子爆弾の使用は不要とトルーマン大統領に進言。6月11日にもシカゴに集められていたレオ・シラードら科学者は都市への原爆投下に反対した報告書を大統領に提出している。科学者は開発の過程で原爆の破壊力の大きさや残忍性を認識し始めたのであろう。使用済み核燃料の影響についてどこまで認識していたか？アインシュタインの後悔の発言、オッペンハイマーの回顧)

③1945年7月25日 目標都市を広島、小倉、新潟、長崎のいずれかとする。

④1945年8月2日 広島を第一目標とする。理由は広島には連合国軍の捕虜収容所が無いということ。実際には呉からの8名の捕虜がいた。

⑤1945年8月6日 広島に初のウラン原子爆弾が投下される。(事実上の実験)

⑥1945年8月8日 二発目の投下の優先順位を小倉、長崎とする。

⑦1945年8月9日 小倉の視界が悪く、長崎へプルトニウム原爆投下。

もし、小倉に投下されていたら、被害は広島以上であった。長崎のプルトニウム原爆は広島のウラン原子爆弾の1.5倍の威力があった。北九州一帯と下関まで被害が広がっていたと予想されている。長崎は周りが山で囲まれていたため熱線、爆風が山によって遮られていた。

⑧広島長崎の被害について

2012年8月6日現在 広島原爆死没者名簿登録者 280,959人

2012年8月9日現在 長崎原爆死没者名簿登録者 158,754人

2012年3月末日現在 被爆者健康手帳保持者 210,830人

合計  
650,543人

統計の時間差により若干の差があります。

原爆投下の1945年12月末日迄に死亡した人は広島で14万人、長崎は73,884人からみて、被害の長期化はプルトニウム原爆の方が大きいと言える。

広島の原子爆弾には50kg搭載され、1kgが核分裂したとされている。長崎のプルトニウム原爆も1kgが核分裂したとされている。



## 2. 戦争の恐怖と科学者の良心

核分裂を兵器にしようとしたのはヒトラーの独裁政治に恐怖を感じた科学者たちであった。始めは聞き及ぶ位の政治家の姿勢が変わってくるのは戦局の変化と科学者の実験の成果が目に見えてきたこと。成果の恐ろしさが判ってくると科学者の良心に火がともる。開発に加わった科学者は兵器としての使用に反対している。

アインシュタインは「私は人生でひとつ大きな間違いを犯した。原爆開発を大統領にすすめる手紙に署名したのが、それだ。」と後悔しています。(長崎原爆資料館ビデオ)

オッペンハイマーは「世界の人々は、一つに結ばなければならない。さもなければ、人類は滅びるのであろう」と言って自分が開発したものの恐ろしさを知っていたのです。

又、「我は死神なり、世界の破壊者なり」とも語っています。

しかし、政治家の姿勢は原子爆弾の強硬使用でした。トルーマン大統領は科学者の助言を聞く耳は持たず、戦後処理の対ソ連優位性を保持するために、ソ連の力を待たずに日本を壊滅することの必要性を第一に考え、自国民には20億ドルも投入した成果を示さなくてはならなかったとされています。政治権力の強さは科学者の良心をもってしても変えることができないことを示しています。人の気持ち

(初めの動機) 政治権力も時の流れによって変化します。当初の原子爆弾開発の目的はドイツの脅威に対抗することでしたが、戦況の変化+αの要因で目的は日本に変わり、

更に戦後処理を有利にするために勢いづいていたソ連を威嚇するために原紙爆弾の威力を具体的に示しておくため、大都市に狙いを定めて投下されたわけです。そんな思惑の裏では科学者のある者はソ連が主導権を持ったときのことを考えて、開発技術を密かにソ連に流していたと言われていました。人間の良心が自己中心的であることがよく解るやり取りです。

日本側の対応にも問題がありました。ポツダム宣言が1945年7月26日に出され27日には日本政府に届いていました。政府内では意見の一致はみられず（宮内省の反対、徹底抗戦派）、ソ連に仲介を依頼していたことを理由として、この宣言を黙殺した。そのこともトルーマン大統領の原爆投下の意志を強めたかもしれない。日本の決定を先延ばしする体質は今も変わっていません。

今日では広島型原爆の10倍もある150キロトンの核兵器が開発されており（長崎型は21キロトン）、2009年現在核弾頭は世界で23,000発あるとの展示があります。

### 3. トルーマン大統領の孫

広島長崎の平和記念式典にトルーマン大統領の孫、クリフトン・トルーマン・ダニエルさんが出席し話題になりました。私も長崎の会場でプレスに囲まれるダニエルさんに近づき写真を撮りました。終始うつむき罪を背負ったような感じがにじみでていました。何事も現場にこなければ解らないことは多くあります。「今日、この地での体験をアメリカで伝え、いつかこの地を再訪問したい」広島長崎二つの資料館をみれば大概の人は何かを感じるはずです。長崎には多くの韓国人が団体で訪れて原爆資料館を見学していました。些細なことの積み重ねが悲劇を生みます。竹島、尖閣問題に冷静な対応が期待されます。

### 4. うたをよむ ひとりの夜の歌

8月9日の朝日新聞の記事です。内藤 明氏の選らんでおられる2首は時に相応しく、人間の本質に迫っていると感じます。

忌（いみ）の日を長くまもりて戦後あり

ひとりの夜のわが魂おくり

武川忠一「青釉」

われに棲み激（たぎ）つ危うきもののため

ひとりの夜は鎮花祭（はなしずめのまつり）

「窓冷」

